

近世城郭の原点 築城四五〇年

勝龍寺城



信長の上洛から
光秀の山崎の戦いまで
戦乱と文化が交錯する
京都防衛の要

京都・長岡京市・勝龍寺城公園（勝龍寺城跡）2021



細川藤孝（幽齋）
立身出世の城



細川ガラシャ
お輿入れの城



明智光秀
最期の城



光秀と共に 義昭・信長の上洛を支える

京都防衛の要衝にある勝龍寺城を、織田信長の命により「瓦・石垣・天主」を備えた近世城郭として改修した肥後細川家の祖 細川藤孝（幽齋）。戦国武将として活躍する一方で、歌道や古典などに通じる戦国随一の文化人として知られています。

藤孝は、室町幕府第13代将軍 足利義輝に仕えますが、永禄8年（1565）永禄の変で松永久通や三好三人衆に義輝が殺害されると、弟 義昭（寛慶）を大和 興福寺から救出。義昭と共に上洛する大名を求めて近江、若狭、越前一乗谷を転々となりました。越前で明智光秀と出会うと、織田信長との交渉にあたり、永禄11年（1568）に信長が義昭を擁して上洛を果たします。

上洛戦で義昭と信長は、勝龍寺城を押さえていた三好三人衆の一人 石成友通（いわなりともみち）を攻め落とします。その際、義昭は寂照院（長岡京市奥海印寺）に陣を置きました。

安土城より早い 近世城郭の先駆け

元龜2年（1571）、藤孝は、織田信長の命を受け、勝龍寺城を改修します。城郭での本格的な瓦や石垣の使用は、天正4年（1576）の安土城築城が画期となると考えられていましたが、発掘調査の結果、勝龍寺城でもすでに使用されていたことが確認されました。また、近年発見された同時代史料（1573年）から、「天主」の存在が確認されました。

中世の土造りの砦や城館から、近世の石造りの城への過渡的な時代にあって、石材の供給体制が整っていなかったことから、石垣には石仏や一石五輪塔などの転用石が多く使われました。

また出土した瓦は、同時期に光秀が築いた坂本城（大津市）と同じ型で作られたものや、信長の居所であった日本能寺（京都市）と同じ系統の瓦が使われたことがわかっています。

肥後細川家 出発の城

その後、藤孝は元龜4年（1573）に、信長から桂川の西一帯（山城国西岡）の地を与えられ、大名となると、終生「長岡」姓を名乗りました。

丹後で本能寺の変の知らせを受けると、主君 信長の死を悼み、出家して幽齋と名を改め、息子の忠興（三斎）に家督を譲りました。

忠興は、関ヶ原の戦いでの功で、徳川家康から豊前・豊後を与えられ、孫の忠利の代には肥後熊本藩として繁栄しました。藤孝から数えて18代目にあたる元内閣総理大臣 細川護熙氏に至るまで、肥後細川家は脈々と受け継がれています。

東京目白にある細川家の文物を管理・研究・公開する「永青文庫」は、勝龍寺城（細川家には青龍寺城と伝わる）の「青」の字をとって名付けられました。



光秀の坂本城と同じ型の瓦

勝龍寺城では、光秀の坂本城（大津市）・佐々成政の小丸城（越前市）と同じ木型で作った同形の軒丸瓦（写真右）や、信長の宿所であった本能寺跡と同系統の軒平瓦（写真中央）が使われていました。このことから、城造りに際して信長から家臣たちへ、瓦工人などの職人集団が派遣されていたことがうかがえます。



現存する希少な「惣構の土塁・空堀跡」

藤孝によって、集落を含む惣構をもつ城郭に改修された勝龍寺城。低地にある城の守りを堅固にするため、城の北側に、堀の底から土塁の頂部までの高さが6mを超える大規模な土塁・空堀を築きました。こうした惣構の土塁・空堀を遺す例は全国でも希少で、復元された土塁・空堀跡を見学することができます。

こきんでんじゆ 古今伝授と細川藤孝



戦だけでなく、連歌会や囲碁などの文化的な交流の場でもあった勝龍寺城。古今和歌集の秘伝を師から弟子に伝える「古今伝授」が、勝龍寺城の「天主」で行われたことが知られます。三条西家に伝わる一子相伝の秘事でしたが、三条西実澄（実枝）の息子が幼かったことから、弟子の藤孝に伝授されました。

現在、熊本市の水前寺成趣園に建つ「古今伝授の間」は、後に、藤孝（幽齋）が八条宮智仁親王に古今伝授を行った建物で、江戸から明治にかけて長岡天満宮の境内にありました。境内には、往時を偲ぶ石碑が建てられています。

「瓦・石垣・天主」を備えた近世城郭の原点 細川藤孝（幽齋）立身出世の城

信長のすすめで結婚

天正6年(1578)、光秀の娘玉(たま・のちのガラシャ)は、信長のすすめにより、藤孝の長男忠興のもとに輿入れしました。玉・忠興ともに16歳のことでした。



婚礼は勝龍寺城で挙げられました。丹後に移封されるまでの2年間、2人の子宝に恵まれ、幸せな新婚生活を送りました。

父・光秀の謀反 洗礼を受けガラシャに

幸せに暮らす玉に苦難をもたらしたのは、天正10年(1582)、父光秀による「本能寺の変」でした。藤孝・忠興は、光秀から加勢を求められますがこれに応じず、玉を離縁し、味土野(京丹後市)へ幽閉します。2年に及ぶ幽閉の間、子どもたちに会うことも許されず、孤独な日々を送りました。

天正12年(1584)天下人となった秀吉のとりなしもあり、玉は復縁し、大坂玉造の細川屋敷へ移ります。キリシタン大名高山右近の影響により、キリスト教に興味を持った玉は、天正15年(1587)、忠興の九州征伐の留守中に屋敷を抜け出し、生涯に一度だけ教会を訪れました。イエズス会士のセスペンデスと出会い、日本人修道士コスメと問答し、玉は受洗を望みましたが、身分を明かさなかったために見送られました。後日、侍女清原マリアの手で洗礼を受け、ガラシャという洗礼名を授かります。「ガラシャ」はラテン語で「賜物」の意で、「たま」の名前にかけたものといえます。

38年の短い生涯は ヨーロッパでオペラに



関ヶ原の戦いに先立つ慶長5年(1600)7月、石田三成方は、大坂にいた家康方の諸大名の家族を人質にしようとして企み、細川屋敷を包囲します。人質になることを拒んだガラシャは、家老小笠原少斎の介錯により自害。「散りぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ人も人なれ」という辞世の句を残しました。わずか38年の短い生涯でした。

イエズス会の宣教師は、ガラシャの壮絶な最期をヨーロッパに伝えます。ガラシャの死は、殉教の物語として戯曲や演劇として広く普及し、「タンゴ・グラチア(丹後のガラシャ)~勇敢なる貴婦人~」と題したオペラが、1698年に神聖ローマ帝国の首都ウィーンで制作・上演され、ハプスブルク家の女性たちの中で人気を博したと伝わります。



細川忠興と玉(ガラシャ)

玉の夫、細川忠興(三斎)は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に仕え、近世大名細川家の基礎を築きました。戦国乱世を生き抜いた歴戦の武将でありながら、千利休の高弟「利休七哲」の一人に数えられます。天正6年(1578)に玉と結婚、信長から与えられた丹後国へ移るまでの2年間を勝龍寺城で過ごしました。



玉の輿入れ行列

肥後細川家の家史「綿考輯録」に、玉の輿入れの様子が描かれています。明智家の行列は女房乗物3挺に明智左馬助が付き従い、細川家の松井康之が出迎えたといえます。祝言は座敷8畳と次の間6畳で行われました。

長岡京ガラシャ祭



平成4年(1992)に勝龍寺城跡を公園として整備したことを記念し、毎年11月第2日曜に、勝龍寺城に嫁いだ玉(ガラシャ)のお輿入れを再現するお祭。輿入れ行列に加え、菅原道真や継体天皇、熊谷次郎直実など長岡京市にゆかりの歴史上の人物に扮した歴史文化行列など、約1,000人が、勝龍寺城公園までの約3kmを練り歩きます。勝龍寺城公園では、多くの来場者が見守る中、玉と忠興の婚礼の儀が執り行われます。



長岡京ガラシャ祭
公式ホームページ



長岡京ガラシャ祭
Youtubeチャンネル

細川ガラシャのお輿入れの城 明智光秀の娘玉が幸せな新婚生活を送った城



本能寺の変から山崎の戦いへ

娘玉（ガラシャ）が幸せな新婚生活を送った勝龍寺城で、父光秀は最期の夜を過ごすこととなります。



主君 織田信長・信忠父子を討った「本能寺の変」から、わずか11日後のことでした。

本能寺の変から6日後、光秀は丹後にいた藤孝・忠興父子に書状を送り、協力を求めます。味方するなら摂津や若狭を与えること、本能寺の変は忠興たちを取り立てるために「みつよし」^{みつよし}で行ったことで、情勢が安定すれば、自身の息子の明智光慶や忠興にあとを譲るつもりであることが綴られています。しかし藤孝・忠興父子は、信長への弔意を表し、光秀に味方することはありませんでした。

そんな中、備中高松城の戦いにあった羽柴秀吉は、信長の死を知ると、毛利と講和を結び、光秀を討つために全軍を率いて京へ向かっていました。3万を超える軍勢が、200kmをわずか1週間で走破した「中国大返し」です。

勝龍寺城で秀吉を迎え撃つ

孤立を深める光秀は、西国から京の入口にあたる勝龍寺城を拠点とし、秀吉を迎え撃ちます。山崎の戦いの前日、勝龍寺の西で光秀方と秀吉方の足軽の間で鉄砲の撃ち合いがありました。

そして運命の日が訪れます。本能寺の変から11日後の6月13日、申の刻（午後3～5時）。雨の中、山崎の戦いの火ぶたが切って落とされます。光秀方の先陣が、秀吉方の高山右近が陣取る山崎の黒門へ攻め寄せたところを押し戻され、小泉川（円明寺川）を越えて乱戦となりました。現在の長岡京市の調子・友岡・久貝、大山崎町の円明寺の辺りが主戦場になったといえます。

光秀が本陣を置いたと推定される古墳の一つが、国史跡恵解山古墳です。史跡公園として整備するために行った発掘調査の際に、墳丘上から曲輪状に改変した跡や破裂した鉄砲の鉛玉などが出土しました。

光秀が脱出した北門の石垣

圧倒的な秀吉軍の軍勢を前に、戦いは短時間で決したといえます。敗れた光秀は勝龍寺城に退却し、最期の夜を過ごしました。



夜中のうちに城を脱出し、坂本城へ向かう途上、伏見小栗栖の藪で落ち武者狩りに討たれて絶命。光秀が脱出したと伝わる勝龍寺城の北門には、当時の石垣や門の礎石が今も遺ります。



いげのやま
国史跡 恵解山古墳（明智光秀本陣跡）

古墳時代中期に造られた、全長約128mの前方後円墳。発掘調査で戦国期の火縄銃の鉛玉が出土し、前方部の掘り込みや後円部の曲輪状の改変などから山崎の戦いで光秀の本陣が敷かれたと考えられています。古墳の頂上からは天王山を眺めることができ、気分は羽柴秀吉を迎え撃つ明智光秀。



恵解山古墳から出土した鉄砲の弾

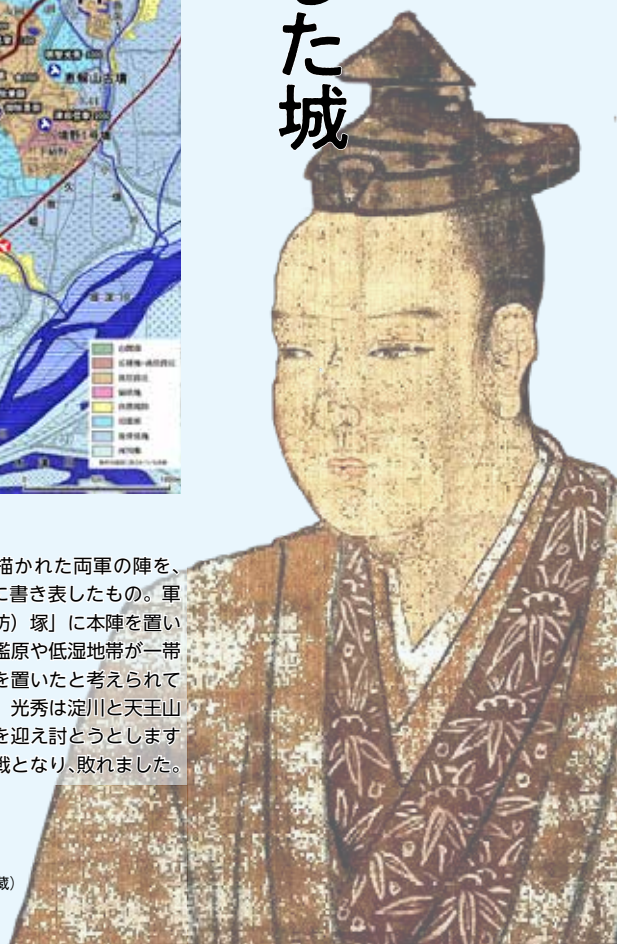
発掘調査で出土した鉄砲の弾や戦国期の土器。弾は破裂した状態で見つかったものもあり、前方部と後円部のくびれ部から出土しました。本能寺の変後に、光秀への勅使を務めた公家で神官の吉田兼見の日記（兼見卿記）には、山崎の戦いの鉄砲の音が京都あたりまで聞こえたと記されています。



山崎の戦い想定布陣図

寛文5年（1665）の絵図に描かれた両軍の陣を、地形分類した明治25年の地図に書き表したもの。軍記物語に光秀は「おんぼう（御坊）塚」に本陣を置いたとあり、青く描かれた川の氾濫原や低湿地帯が一带に広がる中、小高い古墳に本陣を置いたと考えられています。圧倒的な兵力差を前に、光秀は淀川と天王山に挟まれた山崎の地で、秀吉軍を迎え討とうとしますが、高山右近隊に押し戻され、乱戦となり、敗れました。

明智光秀 最期の城 山崎の戦いに敗れ、最期の夜を過ごした城



新しい京都のステキに出会う！

お玉ちゃんと巡る長岡京さんぽ



長岡京さんぽ
お玉ちゃん



長岡天満宮・八条ヶ池



otama_garasha 樹齢170年のキリシマツツジの真っ赤なトンネル！桂離宮を造営した八条宮智忠親王が整備した八条ヶ池の春の風物
#長岡天満宮 #キリシマツツジ #真っ赤



乙訓寺



otama_garasha 約2,000株の大輪の牡丹と白い和傘が美しい。4月中旬～5月初旬には毎年ぼたん祭を開催
#乙訓寺 #牡丹 #空海と最澄が出会った古寺



長岡京市 京たけのこ畑



otama_garasha 白くて、やわらかくて、えぐみがないのが特徴の長岡京市の京たけのこ。一年かけて丁寧育てた春の味覚の王様♪
#京たけのこ #朝掘り筍 #春の味覚



サントリー京都ビール工場



otama_garasha <天然水のビール工場> 京都で工場見学。醸造家のこだわりを学んだ後に味わうザ・プレミアム・モルツは格別！
#工場見学 #試飲 #プレモル #西山の天然水
*新型コロナウイルスの影響を鑑み、一時休止の場合あり。詳細は、ホームページをご確認ください。



柳谷観音楊谷寺



otama_garasha 手水鉢に浮かべられた季節の花々。約5,000株が咲き誇るあじさいウィークは6月中旬～7月上旬に開催
#花手水 #あじさい #押し花朱印づくり



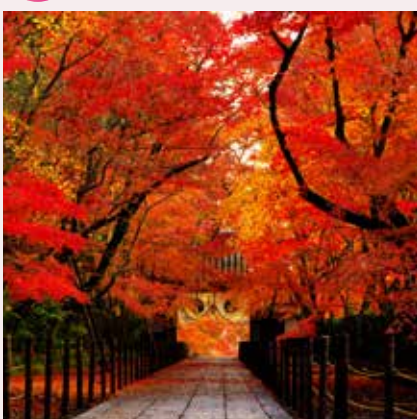
勝龍寺



otama_garasha 勝龍寺城の名前の由来となった空海開基の寺。切り絵体験とオリジナルハーブティーで心も軽く
#勝龍寺 #切り絵体験 #切り絵御朱印 #寺ヨガ



西山浄土宗総本山 光明寺



otama_garasha 「そうだ 京都、行こう」で紹介されたもみじ参道はため息が出るほどフォトジェニック。初夏は青もみじも美しい
#光明寺 #そうだ京都行こう #紅葉 #青もみじ



長岡天満宮・錦景苑



otama_garasha 長岡天満宮境内にある紅葉庭園「錦景苑」。11月下旬～12月上旬のライトアップは紅葉の穴場スポット
#長岡天満宮 #紅葉の穴場 #ライトアップ



柳谷観音楊谷寺・上書院



otama_garasha まるで絵画のような美しさ。重森三玲氏の古都百庭に選ばれた名勝庭園「浄土苑」を眼下に臨む上書院からの風景
#上書院 #紅葉 #なないろ手水 #ライトアップ

長岡京

おさんぽマップ
nagaokakyo map



長法寺

春：山吹・秋：紅葉・冬：寒椿



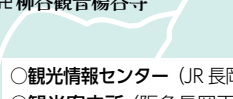
走田神社

山崎の戦いの古戦場を一望



寂照院

上洛戦で足利義昭が陣を置いた



柳谷観音楊谷寺

○観光情報センター (JR長岡京駅西口) ☎075-958-4222

○観光案内所 (阪急長岡天神駅西口) ☎075-951-4500

○長岡京@Navi (阪急西山天王山駅東口) ☎075-963-5511

光明寺

長法寺

走田神社

寂照院

埋蔵文化財調査センター

長岡天満宮

神足ふれあい町家

神足神社

勝龍寺城土塁・空堀跡

勝龍寺

恵解山古墳 (明智光秀本陣跡)

土御門天皇金原陵

長岡京IC

長岡京@Navi

阪急西山天王山駅

サントリー (天然水のビール工場) 京都

中山修一記念館

至大阪梅田駅

至京都河原町駅

至京都駅

至大阪梅田駅

おすすめルート

山崎の戦いと歴史さんぽ

(歩く時間 約30分・約3km)

●勝龍寺城土塁・空堀跡



徒歩
2分
↓
300m

●勝龍寺城公園

徒歩4分 ↓ 300m

●勝龍寺



徒歩
7分
↓
550m

●恵解山古墳 (明智光秀本陣跡)



徒歩
8分
↓
700m

●中山修一記念館 (長岡京発掘の父)



徒歩
3分
↓
240m

●サントリー (天然水のビール工場) 京都 (要予約)

無料バス3分 ↓ 900m

●長岡京@Navi (土産物販売)

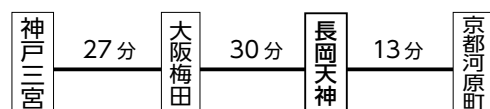
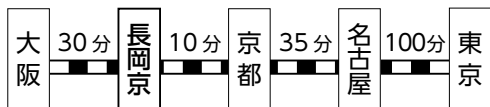
阪急西山天王山駅前

鉄道・新幹線で

京都から約10分・大阪から約30分

JR京都線 (快速) で長岡京駅下車

阪急京都線 (特急) で長岡天神駅下車



京都駅から10分
大阪駅から30分

アクセス
Access

車で

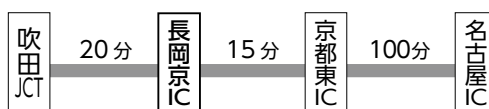
京都から約30分

国道1号～171号で約10km

大阪から約45分

名神高速道路 大山崎JCT

～京都縦貫道 長岡京ICで約45km



Shoryuji-jo Castle Park

勝龍寺城公園

◎9:00～17:00(4-10月18:00)、無休(年末年始除く)、無料 ㊄なし ☎075-955-9515 (長岡京市商工観光課) 長岡京市勝龍寺13-1 長岡京ICから車で5分 JR長岡京駅から徒歩10分



園内は庭園として整備され桜や紅葉が美しい。地下水100%のガラシャ面影の水も



山崎の戦いに敗れた明智光秀が脱出したと伝わる北門には当時の石垣が遺る



戦国乱世を生き抜いた細川藤孝・玉・忠興・明智光秀の生涯を辿るパネル展示



安土城よりも早く「天主」があったとされる土塁からは天王山を一望できる



ゆかりの人物の物語や城郭考古学者の千田嘉博氏が解説した映像展示も



御城印は細川藤孝書状版と細川ガラシャ版の2種があり、市内各駅の観光案内所で販売